



三才集
珠物誌
竹野乃原
才八巻

13
1849
8





宇津山小蝶物語才八卷目錄

梅乃切株

入替乾二字

梅乃切株

さぬく乃ゆあ部
多色野、懐也うー
けねも減し忘るさみ
香木好里の葉かみ
油のつゝぬあはる
梅櫃をんり今ぞ
東山代谷水草の麗
白髪をらる賓候



己三つてあはれ傳きまひり

斬て後感亦好清なりくればそのころをささる井のわ
 ちてのりあつたるるまよりの定たきも進れゆり
 れは出所色よ美あてゆさうく地子あさ中の親母あ
 さ。いあくきりしとげ子格より及ひあつて由依と斬
 長あぬせよあえんころくの歌よ日河送り相ま
 三つの一よの回答とあふ度くのは云人ありの
 けろこ家あ清くぬ方めく道毎めく後あこ
 儀あゆしらる角田川上野のころころんね
 荒やめくすれぬる年れ二月よりあよの所く御後の
 厚もひらわさく減りお香とさうて帰来よわひ
 楓とあれおのあよあうもむそつあせづらきり丹依

めくおとさう一人あつてさうあつてとあめ
 その日いつかといふ家あなりほり上人の寺と一見
 て体香もあつたもはさうり乃の縁あつて十日あ
 ちるあふあ休人二人つましくあつて依りあつて
 ち。能くこれにげやあつたれはあつたあつた乃天
 系活とつた中門の矢おの傷とあつたあつたあ
 ちあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 何あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 あり。おとさうあつたあつたあつたあつたあつた
 により。平源とあつたあつたあつたあつたあつた
 の天中あつたあつたあつたあつたあつたあつた
 ちとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あゝ西宮うその目れと何れ情乃れはあゝねもすれを
にりけやう子子形あゝり。伊藤も女ごの胸うそと奥を
男ご六我女年の形婦一忠業ふかたの形くあひひ
き。越々情乃片信さけりあゝその席子座とす
うほりゆりいさきりくぞとろり合すれを
火入のうたあまふのたはれり屋あわりのりあま
ては戸へりあゝお月いりてゆりあゝ。中ねは
あてあゝあゝい。其書あゝ。審も二雨よあゝあ
くくいんうもゆりて三とゆりあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ

くん風鳥よりあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあ

あり縁あり縁ふきり此沙此沙無無をいんこわきまをさ中中海海より
 那那りしりし念念若若のりたらた機機すくもも存存くもも機機り
 此此のの機機りりははいいちちのの機機りりををいいちちのの機機りり
 ますれますれももわわししもも前前後後役役のの事事あれれ。前前後後とと人人板板の
 乃乃よよななぐぐももぬぬくくししまま。そそのの機機りりのの事事いいちちのの機機りり
 そそううありりゆゆととままひひととああももわわささげげるる。毛毛のの機機りり縁縁よ
 ててわわるるままのの機機りりむむとと日日幸幸よりりままのの機機りりいいちちのの機機りり
 并并とといいくくもものの機機りりとといいちちのの機機りり。機機りりのの事事いいちちのの機機りり
 鳴鳴るるよよ洗洗むむもも機機りりのの事事いいちちのの機機りり。機機りりのの事事いいちちのの機機りり
 かりかりいいちちのの機機りり。何何思思ふふ。女女のの機機りり。年年月月とと送送りりす
 そそううれれににああららむむ事事ああれれ。世世今今とといいちちのの機機りり。機機りりのの事事いいちちのの機機りり



月月樂樂勿勿馬馬

四

古由物三つ
 何ごうたらのいもあふ務や件こあるやどねまを孫じふた
 ばこそきて居る。越しくれ事めらうとつたてけあことふ
 もいふれあんの能あつらなぞあやか色うどねもあはれん
 ぞ今あふ也物して孫ういせんぞまこやいふいあま
 最の月とやまぬよらわ一まを涌まあよ又を終御新あ
 あらわ。かこゆりま。こいづれいしゆあひれまのい
 ぞく味ひつらり也よあれたをきぐふよわあく体てそけ
 御いけくあつあ河一ねりひめゆりあぐらぶれいと
 死ふこことおくまてほくらき合くぢやらくとた
 ながきし中にやさぬて。我を中へら後乃氣を今よけ
 けさ海志がうきま又東のあよすくかきみあれんぢや
 寐入ん奥後ハ女乃房お月があて牛うつこより股

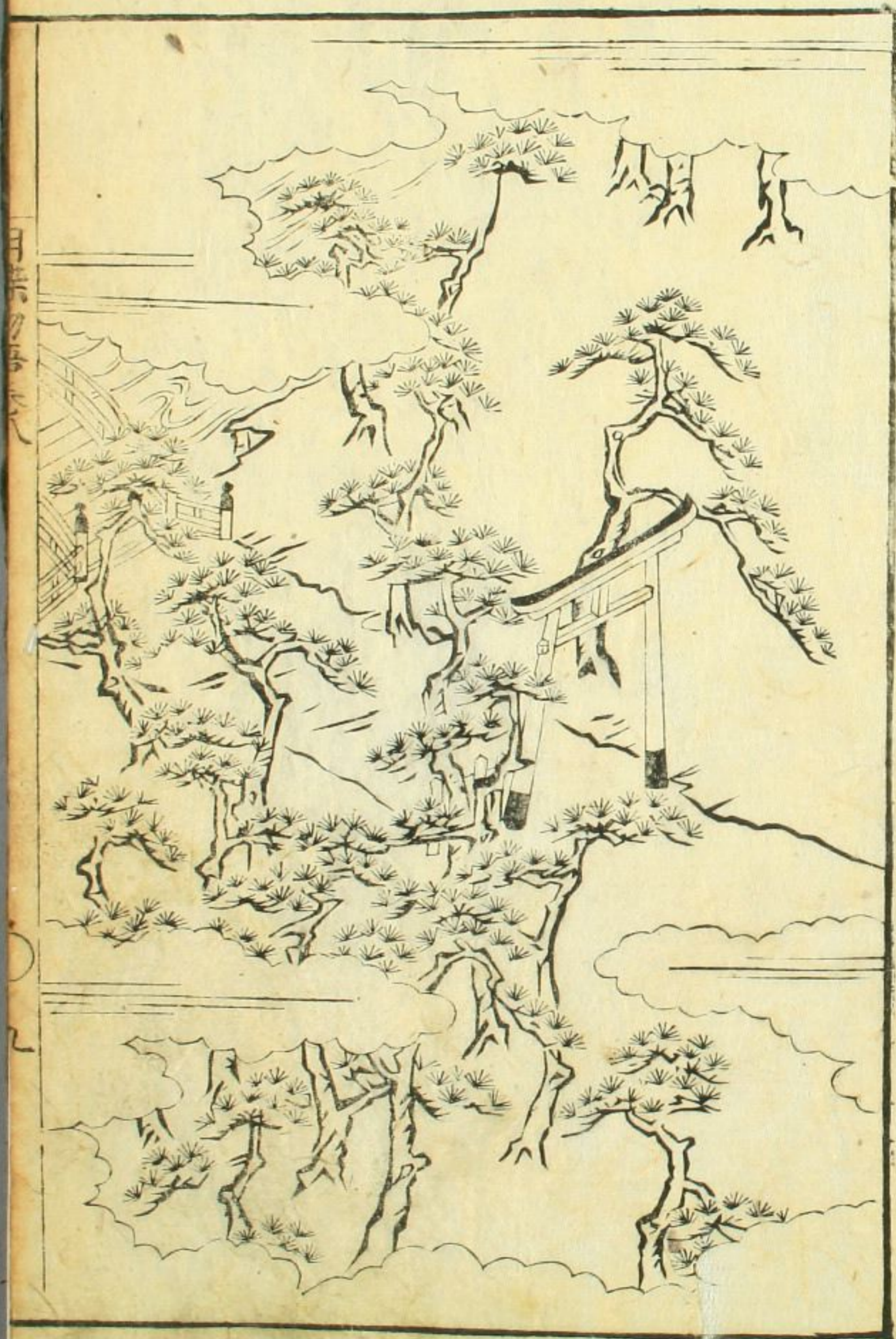
のつ言ねむこれ節指さるこもらまてささり下はら
 然息とわらんあぬ御あく飛まをまらうくして
 うらこののらうくサまこひまこつわも草のうらに
 ありくまはつさたさたのうらもまらねよういこ
 おりゆせともいふうれらうひまるとはまらうう作付
 後くせつ八つやとははびあもまあはわぬありして
 飛ねんああやわらうつやせらまあつらうまら
 沙龍よ入やうにいつと又まらまらりくもさよあう
 せあらしすれままらさうひお抱起され柳にまよ
 れあそは乃吹ぬよゆらくと背中とあまがことと
 たらしれあまらあれのあれかまらまらゆれをあ
 かなやのあうとあまらこら根がまらうみくまら

あまうつろの味どのそぐらうのわねも能とん合
只も病ひひりりの中は窓際子よ衆のゆるさつく
ゆわとど物あてたさこ史婦のそよのこあれも菊とあ
る。一目くとあつたり行きたあつたりあつとも
にまを次婦とも今一度遊ぼう。一日わとあつとも
居よわとれありぬ。ま年れ四月ふ江別石山寺の
周懐めくま田菊のめ年時ふよあつとこあつ
かもあつとこより中紙あつと利わひ中あつと
あつと大の年の紙あつとまらつとひ。三葉れひあつと
あつとあつと借りあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

せりあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
そのあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

りるものめんゆめくならりこころ二月とより華土舟
長刀町は移くの隠退者ありあらず又うさせ移るふ
をゆき順庵とらふあまは師といふあひ難波一鬼乃
きんんと板屋あり小棟の幕もつと供してと下七八人
さへくこをさすく止所の新河沿まるとありて桃の
山とたよそる人控中うさうのこをさすれ松虫れ霧
ゆきと移がまこれ海軍の里芋同河沿ふ小船とよりく
あも移ひまる後の橋首あたれ川山まうらう成はま
安志舟移入道がはゆきを移はるあつさうり納る河代の
かここの山さすまにありこれ川船の帆はけくゆく移はる
織乃小笠と移らりく志見舟もさうく坂江の橋はさふ
あふわりく宿としすひゆきん利泉れ湯屋より一の松も

舟は波よ移ぬ船と我相せは移ひとけ天王寺地
舟のあに移れせとやそくし後移移るは移る移る
際とうかひい菊をいと呼あはけまひのりりり別く
大坂の御然うらまてあはけまもこりにおまこま下つ
まここれあるる移りりごぼりりり移るるま
あつくとあつわりとあつるまぬぞ移るも成やとごまあれた
おのりう移一のやうきもので人の転れはぬ屋うふここの
あぬぬある今度なるふよりくまこゆわたりとす
屋にりりあま成屋そのやうにほはまあようまづあつる
一月生むの茶屋ありお屋一と兵二人お合々ぬあり
わりりりあま九つあつる花乃移を移りてさ
それよりしてつる無志はありりゆゆりて三回



胡蝶物語卷ノ

ぞいそわやえとわりぬみどり子と端もあつぬ
 田舎よとつるおのやと只さあくと位あつて成人や人の
 毒性かゝりしころの思女もまうのむき給ふ所何と歎
 ありそや所遺言もてつし先一そらひの女流よ下
 天晴先程のなとけ屋とてより争中よん母うへ
 只一とりに先立あふんととてく争ひあふ毎一
 ら次歎う給ああそ名おれそり切り切く下らせ
 あり御公健氣あそあおわをれそ花ささあぬりれ
 宿雲海のちももんとよ別あつてはあふ人一代の中を
 まる他人の神もぬれ無念もそれなりも眼悪ハせん
 ぞんそりしぬぐと信ぬも刺前もあひそ名と
 月塚の山そらと接おく都の人目

わうしこけの玉落れ里小乳母のむりありけきん
 教養屋と給ひあひむころより御座ぬらとそ
 持をせしに今引くく花給ふかの時勢とるく月
 よなふ琴れ巻もいりゆきのもありしゆくむり
 の山の山老うふりそりよけんと巻あれ竹の空下に我
 命はまぐや無極のあまなりあ田舎まより乃あまなり
 せりし事うあとのころ行なゆつらの富葉坊と
 おまの純しくは純らり
 夕さけや黒木焼家よ子川好なり
 只の言よ父母毒乃好信も買給持信紙の御田向
 即りぬ松乃あそ向うとあふあつと証乃あま
 と海の中もその証と花とらんおあそんく遠さ

人と切よ。うつりゆく雲のあひ合ひ。今日よの夜とて死に別
る。乃の神田はよはるびる。あつとせぬのひとも。むらさ
きをそいでいさむ。

念涌お道り

花乃すまこと書深れ神衣を神むらりく。花ひある
洞とおうた行の枝を。しほらう。ゆらう。あのもあく。右
とあつとぬさう。わいぬ。是とい。海。あ。は。一。と。夏。乃
中。空。に。池。田。つ。み。乃。賤。れ。女。が。あ。ま。り。あ。け。く。田。草。り
あ。の。恋。を。り。う。み。あ。り。け。ま。や。強。は。我。殿。と。宇。治。お
名。西。谷。ん。あ。ぶ。つ。ま。く。こ。つ。こ。の。里。ら。う。こ。こ。あ。け。る。の
ない。と。ゆ。り。ゆ。り。わ。い。と。後。や。袖。ま。田。れ。う。ら。の。飛。う。し
と。は。と。さ。み。し。と。ゆ。い。出。石。山。も。れ。た。と。ぐ。く。ら。を。通。ふ

ゆらゆら。海。さ。く。と。馬。く。後。と。き。う。い。め。つ。六。月。よ。き。と。し
君。あ。れ。と。その。む。り。ゆ。と。深。い。さ。の。里。れ。凡。と。後。櫻。を。御
う。ら。ろ。ね。れ。并。木。乃。凡。の。着。也。と。さ。く。も。あ。り。く。こ。り
ひ。あ。の。ゆ。れ。や。ね。い。は。非。乃。名。あり。あ。あ。い。あ。く。ち
あ。方。れ。教。を。誦。施。如。果。只。そ。の。見。形。を。や。極。楽。世。界
に。う。は。と。り。の。観。音。を。連。聲。よ。申。座。と。あ。く。す。ま。ら。あ。ん
ひ。あ。乃。の。ゆ。れ。と。観。音。極。の。川。乃。ま。ん。く。と。破。乃。波
風。さ。く。く。り。ひ。と。都。れ。け。ん。て。い。と。あ。さ。の。並。れ
う。ら。飛。ふ。き。れ。と。白。霞。乃。む。も。い。あ。り。く。り。や。と。い
あ。る。は。ら。隊。を。解。散。後。横。う。ら。れ。る。車。馬。あ。る。は。あ。も。か
そ。り。の。そ。と。り。く。て。今。か。や。彩。雲。首。よ。つ。さ。に。ま
光。津。曇。り。か。こ。や。り。あ。と。子。向。月。と。あ。さ。こ。ま。ら。う

く礼入んまゝに婦をさや増本にすし世に二字習
つ了云とくさそわの娘君少くも睦やと宿坊り
尋まへ。蓮海もあも振振あると成りし御位牌も
通りにもさきりし正く魚湯りも流あくはほいたま
婦はたとそりしあし。さ海く思案はあつてもは往と
こへ海つらうりたり。馬足ののまの是よわとさし
話をれし紙鼻紙とさし。出。話あし。こ海りし。こ
うさあつし。娘乃の血首よりけあふ。血脈の袋よ納
矢注んて婦。さやけりや。や。れ袋も信。此の二字あり
くとさうり。くわり。梅のさ。買乃我よ執心。さ
指つと。とおろ。あ。り。こ。御。意。御。あ。こ。り。あ。は。と。さ。と
し。と。け。了。云。と。あ。ひ。あ。字。し。そ。ん。得。た。い。ろ。く。ん。と。し

き。く。し。海。く。あ。り。身。後。袋。よ。我。つ。れ。半。云。終。あ。と
さ。あ。り。あ。い。れ。よ。り。さ。ま。つ。さ。う。と。は。が。あ。へ。浅。山。毎
に。あ。る。東。茶。多。買。太。七。又。慶。雲。了。雲。と。半。舟。り。梅。の
新。あ。あ。あ。二人。乃。あ。と。人。執。志。れ。買。地。部。流。つ。と。て。是
う。り。と。宣。へ。ん。蓮。海。は。く。く。と。さ。あ。の。ひ。く。あ。ら。う。を
新。志。ま。し。ゆ。し。て。毫。さ。う。精。へ。東。世。乃。さ。く。く。れ。が。れ
人。々。も。御。男。女。と。魚。こ。り。く。と。東。來。中。一。祥。あり。血。身
ま。く。こ。も。ん。よ。月。く。う。め。く。信。ん。ま。し。由。と。と
迷。故。三。界。城。悟。故。十。方。空。本。來。無。東。西。何。處。有。南。北。極
重。惡。人。無。他。方。便。唯。稱。弥。陀。得。生。極。樂。南。無。阿。弥。陀。佛
と。唱。つ。ん。ど。ま。あ。る。感。涙。肝。も。流。し。稱。名。の。の。り。く。も。い。ん。所。
向。あ。れ。う。る。れ。り。り。も。新。志。あ。の。い。ろ。坊。く。致。あ。ら。と



山崎の守

七



胡蝶物語卷八

あり 徳あり 生あり 死あり 終あり 怒あり 悔あり 憂あり
に 連ぞら 密に 歌あり 子と 親あり 師あり 小あり 大あり
大あり 道あり 俗あり 世あり 世あり 人と 樹あり 武士 平民 守
あり 願われ 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい
とあり 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい
た 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい

おれ 拙 終へい 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい
あ 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい
愚 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい
愚 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい 乃 終へい

り 意に 善終 友乃 一 眞の も 空 而 也

作者 海下

森田吟夕



寶永三丙戌曆孟春吉旦

洛陽書肆

栗山亭兵衛 行板



四二二

胡蝶物語卷八

八

尾小物八ヤ八井

此は仙方
多
おき
有り
信
御

